

# 令和5年第二次世界大戦戦亡者慰霊祭



日時：令和5年8月15日（火）

10:00～

場所：探勝園（城山公園内）

## 会次第

開式

一同拝礼

黙祷

慰霊のこぼ

鹿児島市長 下鶴 隆央

鹿児島市議会議長 川越 桂路 様

児童代表 山下小学校6年 内藤 蓮温さん

生徒代表 甲東中学校3年 井上 心乃さん

献花

一同拝礼

閉式

## 鹿児島市平和都市宣言

わたくしたちの郷土鹿児島市は、先の大戦により市街地のほとんどを焼失し、多くの尊い人命と財産を失った。

鹿児島市は、その焦土の中から立ち上がり市民の英知とたゆまぬ努力によって、今日、南九州の中核都市として限りない発展を続けている。

わたくしたちは、この平和で豊かな郷土を次の世代に引き継ぐために、再び戦争による惨禍を繰り返さないことを誓い、あらゆる国の核兵器の全面廃絶と国是である非核三原則の遵守を希求し、世界の恒久平和の達成を願い、ここに「平和都市」を宣言する。

平成2年2月26日 鹿児島市



平和都市宣言30周年記念作品

絵画の部 最優秀作品

吉野東中学校 小野 馳昂さん



本日の様子や「慰霊のこぼ」は、本市HPでも紹介予定です。  
<https://www.city.kagoshima.lg.jp/soumu/shichoshitu/hisyo/shise/heiwa/sennbousya.html>



鹿児島市

# 第二次世界大戦敵味方戦亡者慰霊碑（解説）

## ① 鹿児島市の戦災

第二次世界大戦終盤の昭和20年、本市は大規模な空襲により市街地の約93%を焼失し、当時の人口の約3分の2にあたる11万人以上が被害を受け、終戦を迎えました。



昭和20年、焼け野原となった市役所周辺の様子  
（撮影：平岡正三郎氏）

## ② 慰霊碑の建立・由来

第二次世界大戦敵味方戦亡者慰霊碑は、昭和28年12月、大戦で亡くなられた世界中の方々を悼むとともに、二度とこのような惨事が起こらないことを祈念するため、第14代 勝目清 鹿児島市長により建立されました。

当時は中央公園に建てられましたが、その後、地下駐車場建設に伴い、現在の城山公園内探勝園に移設されました。



第二次世界大戦敵味方戦亡者慰霊碑（探勝園）

## 「第二次世界大戦敵味方戦亡者慰霊碑」建立の趣旨（慰霊碑横の石碑）



第二次世界大戦では、世界中で二千数百万人の生命が失われたようであります。その霊をなぐさめるとともに再びかかる惨事が起こらないようにと思ってこの碑を建てました。旧薩摩藩主島津義弘は朝鮮での戦争で亡くなった、敵味方の人々のため慶長4年高野山に供養碑を造りました。これは日本における赤十字精神の見本として世界各国に有名であります。此処に造った碑は、前記の供養碑と同じ形、同じ大きさであります。

昭和28年12月25日 鹿児島市長 勝目 清

### ③ 高麗陣敵味方戦死者供養碑

慰霊碑の手本である「高麗陣敵味方戦死者供養碑」は、高野山の島津家墓所の一角に建立され、県指定文化財となっています。

供養碑は高さ385cm、幅81.8cmの位牌形で、碑の中心に敵味方の兵士を供養する旨、その右側に敵、左側に味方の被害が刻まれています。これらは武士道の博愛精神の発露としても知られています。

また、明治41年、島津家子孫の忠重により、英訳した碑文を刻んだ碑も建てられています。



高麗陣敵味方戦死者  
供養碑  
(和歌山県高野町)



島津義弘公銅像  
(JR伊集院駅)

### ④ 慰霊祭の開催

本市では、慰霊碑建立以来、8月15日にご遺族をはじめ関係の方々に参加いただき、「第二次世界大戦戦亡者慰霊祭」を開催しています。

式典では、慰霊のことばや献花を捧げ、敵味方の区別なく戦亡者を慰霊するとともに、再び戦争の惨禍を繰り返さないことを誓っています。



戦後78年が経過し、国民の大半が戦争を知らない世代となり、戦争の記憶が風化していくことが懸念されています。また、ウクライナをはじめ、世界各地で紛争が絶えることはなく、今なお多くの市民の命が脅かされています。

本市は、今後も市民の皆様とともに、慰霊碑に込められた思いを次の世代へ語り継いでいくとともに、世界の恒久平和の達成を願い、不断の努力を続けていきます。



# 児童・生徒からのメッセージ

## 名山小学校6年 新地 星空 さん

戦争が終わって78年。私は戦争を知らずに育ちました。語り継がれている話の「戦争」・映画やドラマの中の「戦争」・本の中の「戦争」・今も遠い国で起こっている「戦争」しか知りません。

5年生の時に国語の学習の中で「たずねびと」という広島を舞台にした話を通して戦争について学びました。自分と同じくらいの歳の、たくさんの命が失われたことを改めて知り、今の平和が当たり前だと思てはいけないんだと思いました。そして、未来を閉ざされてしまった人たちのために一生懸命生きていきたいと思いました。

8月15日は戦争で命を奪われた人たちに心を寄せて、これからどう生きていくかを考えていく日にしたいと思います。



高学年による  
戦争に関する本の読み聞かせ

## 鹿児島玉龍中学校3年 中山 寛康 さん



県内自主研修における  
知覧特攻平和会館での平和学習

私は、部活動の大会で串良平和アリーナに行くことがあります。そのアリーナへの長い一本道が戦時中の滑走路だったという事実を知ったとき、私はショックを受けるとともに、平和のありがたさなど様々なことを考えました。

社会の授業で太平洋戦争について学んだ私たちですが、教科書では戦争があったという歴史の一部しか知ることができません。しかし、特攻基地のあった場所で、過去の出来事や人々の気持ちに思いを馳せると、戦争当時の日本の姿が色濃く映し出されてくる気がするのです。

春には満開の花で桜色に染まる一本道。私は、この美しい光景が永遠に続くことを願って、戦争の恐ろしさだけでなく、当時の悲しみも伝えていきたいと思っています。

## 長田中学校2年 徳重 いさ子 さん

長田中学校では、2年生“平和”をテーマに、修学旅行で長崎の原爆について学び、文化祭では、平和に関する劇や展示を行いました。

これまで、教科書やテレビなどでしか見ることのなかった、貴重な資料を目にすることで、戦争の悲惨さや恐ろしさを肌で感じることができました。

先人たちが繋いでくれた、この命を大切にして、これからの未来のなかで争いが起きない平和な世の中となるように私たちにしかできないことを見つけていきたいと思っています。



文化祭での  
平和に関する展示物